

# 1 キャリア教育とは

## 1. キャリア教育の定義について

平成11年12月に中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続について」の答申の中で公的に「キャリア教育」の名称が使用されて以来、文部科学行政関連の審議会報告や内閣府による若者の自立支援に係る取組により、キャリア教育が推進されてきたが、平成23年1月の中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の答申で、キャリア教育を下記のように定義した。

### キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

### キャリアとは

人は、他者や社会との関わりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら、生きている。これらの役割は生涯という時間的な流れの中で変化しつつ、積み重なり、つながっていくものである。このように、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

### キャリア発達とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。

また、同審議会においては「働くこと」について、人が果たす多様な役割の中で、「自分の力を発揮して社会に貢献すること」としており、「働くこと」には、職業生活以外にも家事や学校での係活動、あるいはボランティア活動などの多様な活動が含まれ、個人がその学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等の生活の中で経験する様々な役割を遂行する活動として、幅広く捉える必要がある。

## 2. キャリア教育で育成すべき能力

キャリア教育における育成すべき能力は、「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」へと転換された。「基礎的・汎用的能力」は一生涯を通じて育成すべき能力であり、社会人に求められる能力であるとされ、すべての教育活動を通じての育成が求められている。

### 「基礎的・汎用的能力」とは

#### POINT

#### 人間関係形成・社会形成能力

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

#### POINT

#### 自己理解・自己管理能力

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

#### POINT

#### 課題対応能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

例えば、情報の理解、選択、処理等、本質の理解、原因の追求、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

#### POINT

#### キャリアプランニング能力

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。